



FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第 57 号 2015.6.3

FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

十和田農場から

泉正雄主任の定年退職のご挨拶

このたび、長年勤めた FSC 十和田農場を 3 月一杯で定年を迎えることになりました。



長い間お世話になった皆様に感謝申し上げます。

また、農場職員の企画により催していただいた退職晩餐会には、お忙しい中ご出席いただきました寶示戸 FSC センター長、黒瀬十和田農場長、渡辺前農場長および FSC の OB でもある東先生、実習や研究の面でお付き合いの多かった杉浦先生、馬術部の馬の飼養管理でお付き合いする機会の多かった松浦先生、動物代謝学研究室の高橋先生、総務課の久米課長、FSC の畔柳先生始め十和田農場職員の皆さんには御礼申し上げます。

予想もしなかった心のこもった記念品まで頂戴し、感慨に堪えませんでした。

本当に有難う御座いました。

皆様の今後益々のご健康のご活躍をお祈り申し上げます。

なお、4 月以降も嘱託職員としてしばらくお世話になることとなりますので学内で見かけた時は今まで通りお気軽に声をかけて下さい。

めん羊、ヤギの分娩が始まりました

例年通り、昨年10月頃から交配を始めためん羊、ヤギたちが身を削って育ててきた約5カ月間を経て、子供たちを産み落とす時期になりました。今年もたくさんの小さな命が誕生しています。

ヤギは日本ザーネン種、めん羊はサフォーク種、マンクス・ロフタン種の純粋種に加え、交雑種が誕生しています。今年が目玉は、サフォーク種とマンクス・ロフタン種の交雑種です。今年は、ひつじ年ということもあるのか、茶色い羊毛が希少なマンクス・ロフタン種の羊毛の入手の希望が多く、実験的にサフォーク種にかけ合わせたら茶色い毛の大きな羊が出てくるのではないかと…？という淡い期待を込めて3腹だけ交配させました。マンクス・ロフタン種は体が小さいので、サフォーク種の雌にマンクス・ロフタン種の雄を交配する形をとりました。

そして、待ちに待った3月。無事に全3腹分娩を終えましたが、出てきた子羊はというと、茶色い顔やぶち柄の顔、体は白地に黒や茶色の斑点やぶちが混ざったような模様をしていました。きれいに茶色は引き継がないようです。しかし、サフォーク種の黒い顔と四肢に白い毛というのも素直には引き継いでいませんでした。なかなか面白い結果ですが、今後の成長が楽しみです。



マンクス・ロフタンの純粋種の子めん羊



マンクス・ロフタン×サフォーク種の交雑種の子めん羊

八雲牧場から 東都盛況職員来場

去る2月7日東都生協の職員の方々が来場されました。

北里八雲牛生産組合の牧場を見学し、職員の方々が常々感じている北里八雲牛および有機牛への疑問に答えるなど、生産者と販売者の間で話し合う機会を持つことができました。

販売に直接かかわる方々が多く来られたことから、今後の販売促進に期待が持てそうです。



「北里八雲牛」試食アンケート実施

独立行政法人農畜産業振興機構 (ALIC) の国産食肉等新需要創出事業の一環として「北里八雲牛」の試食アンケート調査を行いました。2月8日に八雲町内で行われた「さむいべや祭り」の会場に、牧場職員、東都生協職員、北里八雲牛生産組合員と共同で試食コーナーを出展しました。準備していた200食の北里八雲牛の焼き肉は全て完売し、一時行列ができる程の盛況でした。

アンケートの結果から、北里八雲牛の認知度はまだまだ町民に浸透していないことが解ったことから、さらに周知する必要があることを実感しました。



北里大学と八雲町の連携促進に向けた講演会の開催

2月17日に八雲町内で、北里大学と八雲町の連携促進に向けた講演会が開催され、寶示戸牧場長からは北里大学全般について、畔柳准教授からは北里八雲牛の生い立ちについて講演が行われました。

講演会終了後には、試食会が催され北里八雲牛のリブローズスライスとサーロインステーキが振る舞われました。

参加された方々からは、とてもおいしいと大変好評でした。

「草熟北里八雲牛」伊勢丹相模原店の「春の大北海道展」に出展

2月25日から3月3日まで伊勢丹相模原店で行われた「春の大北海道展」に草熟北里八雲牛の商品を出展いたしました。

今回も北里研究所総務部広報課および(株)北里ライフサービスの協力により、無事終了することができました。今後は4月22日からの小田急町田店「北海道展」や、5月28日からの高島屋新宿店「第8回大学は美味しい!!フェア」に出展する予定です。

(編集担当：畔柳 正)